

国語 第1学年 くわしく かこう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第1学年下巻に載っている書くことの教材。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（10月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（B(1)ア）と言語活動（B(2)ア）を扱う書くことの単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、知らせたい物の前で、目・手・鼻・耳を使って色や形、大きさ、さわった感じ、におい、音などを見付けてカードに集め、友達の質問を手がかりに書き足し、その中から家の人に知らせたいことを選べる。そのうえで、選んだことを順番に並べ、文と文の続き方に気を付けて、家の人が見て様子が見え文章に書き、友達の文章のくわしく書けているところを見付けて伝えられる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕の目標 (2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音、拗《よう》音、促音、撥《はつ》音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ア	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)イ	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)エ	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)オ	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(2)ア	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(i)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした総合的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使う（(1)オ）。経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる（B(1)ア・ウ）。文章に対する感想を伝え合って自分の文章のよいところを見付け、言葉がもつよさを感じ、思いや考えを伝え合おうとする（B(1)オ・学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「書くこと」において、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ③「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ)	①進んで、知らせたい物をよく見て書くことを集め、学習の見通しをもって、見付けたことを家の人に知らせる文章を書こうとしている。

単元の流れ

全10時間。光村図書出版の年間指導計画例（令和6年度版）は、この単元を書くこと10時間を配当している（10月）。次ごとの内訳（2・7・1）はこちらの案。学校の年間指導計画が違う時はそれに合わせる。学習指導要領は第1学年及び第2学年の書くことに年間100単位時間程度を配当するとしている（第3の1(5)）。国語の標準授業時数は第1学年で年間306単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学校で見付けた生き物や物のことを、家の人に知らせるという学習の見通しをもつ。 ○教科書の例の文章を読み、どんなこと（色・形・大きさ・さわった感じなど）が書いてあるかを確かめる。	態①（行動観察）
	2	○知らせたい物（学校で育てている生き物や植物、学校にある物）を決め、なぜ知らせたいかを友達に話す。	

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3	○実物を見て、色・形・大きさ・数・動きなど、目で見えて見付けたことを一枚に一つずつカードに書く。	知①（観察カード）
	4	○さわる・においをかぐ・音を聞くなどして見付けたことをカードに書き足す。大きさは身近な物と比べて書く。	知①（観察カード）
	5 （本 時）	○カードを友達と見せ合い、質問を受けて書き足し、いちばん知らせたいことを選ぶ。	思①（観察カード・行動観察）
	6	○選んだカードを、書く順番に並べる（はじめ：何について、なか：くわしく、おわり：思ったこと）。	
	7	○並べたカードを見ながら、文と文の続き方に気を付けて文章を書く。	
	8	○続きを書き、文章を書き終える。	思②（文章）
	9	○文章を声に出して読み返し、句点（。）、「は」「を」「へ」、くわしくする言葉を確認して直す。	思②（文章） 態①（読み返し）
第3次	10	○友達と文章を読み合い、くわしく書けているところを伝え合う。 ○学習を振り返り、文章を家の人に渡す。	思③（付箋・発言） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：観察カードを友達と見せ合い、質問に答えたり実物を見直したりして、色・形・大きさ・さわった感じなど知らせるために必要な事柄を書き足し、いちばん知らせたいことを決めることができる。
(B(1)ア)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前の時間までに書いたカードを机に並べる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「おうちの人が、見たことがなくても様子が目に浮かぶように知らせるには、どんなことを書けばよいでしょう」 【めあて】ともだちと カードを 見せあって、くわしくかきたそう。 〈予想される児童の反応〉 ・いろを かいた。 ・かたちを かいた。 ・さわった かんじも かいた。 ・まだ かいていない ことがある。	・目・手・鼻・耳の絵を付けた質問の言葉カード（色は・形は・大きさは・さわると・においは・音は・何に似ている）を黒板に貼る。 ・家の人に読んでもらうことを、もう一度確かめる。
展開 (分)	3 先生のカードを例に、質問のしかたと書き足し方を確かめる。 ○「先生のカードに、どんな質問をしたら、もっとくわしくなりますか」 4 ペアでカードを見せ合い、質問の言葉カードを使って質問し合う。 5 質問されて答えたことを、カードに書き足す。答えられなかったことは、実物を見に行き確かめる。 6 書き足したカードの中から、いちばん知らせたいことに花丸を付ける。 ○「おうちの人に、いちばん知らせたいのはどのカードですか。どうしてですか」 〈予想される児童の反応〉 ・いろは なにいろですか。 ・おおきさは どれくらいですか。 ・さわると どんな かんじですか。 ・ちゃいろと しろの もようがある。 ・わたしの てと おなじ くらいのおおきさ。 ・さわると ふわふわして あたたかい。 ・はっぱの うらは ざらざら している。 ・うごきがおもしろいから、これを しらせたい。 ・いろが きれいだから、これに する。	・質問は一度に一つずつにさせ、答えを聞いてから次の質問をさせる。 ・答えた子が、その場で一文をカードに書き足せるように、鉛筆を持たせておく。 ・書くのが苦手な子には、話したことを先生が短く書き取り、それを写させる。 ・大きさが言えない子には「手と比べると」「消しゴムと比べると」と、比べる物を示す。 ・早く終わった子には「何に似ているか」を書き足させる。 ・実物を見に行く時は、行ってよい場所と戻る合図を先に決めておく。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 二、三人が、書き足したことと、花丸を付けたカードを発表する。 8 振り返りを書く。 (型)「ともだちに きかれて、…を かきたしました」	・書き足した言葉に赤線を引かせ、自分で確かめられるようにする。 ・振り返りが書けない子は、口で言わせてもよい。 ・次の時間は、カードを並べて書く順番を決めることを伝える。 ◎思① 知らせたい物を見て見付けたことから、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(観察カード・行動観察)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付とめあて。その左に、目・手・鼻・耳の絵を付けた質問の言葉カード（色は・形は・大きさは・さわると・においは・音は・何に似ている）を縦に並べる。中ほどに先生の観察カードの例を拡大して貼り、子どもの質問で書き足した文を赤で書き込む。その左に「くらべる ことば」（～くらい・～より おおきい）と「ようすを あらわす ことば」の欄を作り、子どもから出た言葉を書き足していく。左端に花丸の付け方と、振り返りの型。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は六つ。一つ目、「かわいい」「きれい」の一語で済ませ、何がどうなのかを書けない。手当ては、質問の言葉カードを机に置き、一つずつ答えさせること（B(1)ア）。二つ目、大きさや様子を表す言葉が出てこない。手当ては、身近な物と比べる言い方（～くらい・～より大きい）と様子を表す言葉の一覧を掲示し、使った言葉に印を付けさせること（(1)オ）。三つ目、カードに書いたことを全部つなげて長く書こうとし、知らせたいことがぼやける。手当ては、本時で花丸を付けたカードから書き始めさせること。四つ目、「そして」ばかりで文をつなぐ、または一文が長く続く。手当ては、カード一枚を一文にし、文の終わりに句点を打たせること（B(1)ウ・(1)ウ）。五つ目、読み返しても直す所に気付かない。手当ては、読み返す観点を三つ（句点・「は」「を」「へ」・くわしくする言葉）に絞り、声に出して読み返させること（B(1)エ）。六つ目、知らせたい物がその場になく、見直せない。手当ては、端末で写真を撮っておき、教室で見返せるようにすること（第3の2(2)）。

プリントの案

観察カード（くわしくカード）

一枚に一つのことを書くカード。上に小さな絵をかく枠、下に一文を書くマス目。左上に目・手・鼻・耳の絵を並べ、どれを使って見付けたかに丸を付ける。B(1)アの「必要な事柄を集め」に合わせた。

質問の言葉カード

「いろは」「かたちは」「おおきさは」「さわると」「においは」「おとは」「なにに にている」を、目・手・鼻・耳の絵と組にして一枚ずつ印刷する。黒板用の大きい物と、ペアで使う小さい物の二種類。

比べる言葉と様子を表す言葉の一覧

比べる言い方（～くらい・～より おおきい・～より ちいさい）と、さわった感じ・見た感じを表す言葉（ふわふわ・ざらざら・つるつる・ぴかぴか など）を並べた一覧。使った言葉に印を付ける欄を付ける。(1)オに合わせた。

組み立ての台紙

「はじめ（なにについて）」「なか（くわしく）」「おわり（おもった こと）」の三つの枠にカードを貼る台紙。カードを貼り替えて順番を考えられる大きさにする。B(1)イに合わせた。

原稿用紙と読み返しカード

1年生用の大きいマス目の原稿用紙。読み返しカードは「。を うった」「は・を・へ を たしかめた」「くわしく することばがある」の三つにチェックする欄。B(1)エと(1)ウに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作り方（粘り強さ・自らの学習の調整）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 1年（Excel）「1年下巻」。单元名「くわしく かこう」・書くこと10時間・10月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

